

平成29年度 岡山県立西大寺高等学校 重点目標

<p>学校経営目標</p>	<p>コミュニケーション能力(7つの力)の育成を核とした学校づくり ーグローバル化する社会で生きる力の育成ー</p>	<p>重点① 授業力向上の取組…ICTの効果的な活用と研究授業の推進 評価：ICTを活用できている教員の割合が80%以上 研究授業を実施または参観した教員の割合が80%以上 学校教育診断アンケート「授業の進め方等に工夫が見られ、分かりやすく充実した授業である」の項目のプラス評価の割合が80%以上（生徒） 重点② 「キャリア・ノート」の活用…事前・事後学習と系統性の充実 評価：教育活動全般にわたり「キャリア・ノート」が活用され、系統的な指導がなされている。 重点③ 美しい学校づくり…「美しい場所で 美しく歩き 美しく話す」 評価：各分掌、自己で定めた具体的な目標指標に従って総合評価する。</p>
---------------	--	--

該当する経営目標の番号	課・学科・学年等	具体的目標	具体的計画	達成基準
①	学力向上委員会	公開授業やOJT校内チーム研修等による研究授業を促進し、学力向上に資する授業力の向上を図る。	・OJT校内チーム研修による課題の共有、実践を行う。 ・公開授業・研究授業の成果を踏まえ、本校独自の「授業のポイント」を作成する。	・研究授業を実施または参観した教員の割合が80%以上（教員） ・学校教育診断アンケート「授業の進め方等に工夫が見られ、分かりやすく充実した授業である」の項目のプラス評価の割合が80%以上（生徒）
	教務課	学習環境や学習態勢を整える意識を高め、学力向上に繋がる授業力の向上を図る。	・整備されたICTを有効活用し、効果的な授業を展開していく。 ・共通の目標を立てて授業規律を整え、学習意欲が高まる雰囲気を作りを行う。 ・年間を通した授業目標を明確にして、授業力の向上に取り組む。	・各教科において、ICTを有効活用した授業実践事例を1つ以上あげることができる。 ・各学年、教科で授業規律を整えるための目標を立て、取り組んでいくことができる。 ・学校教育診断アンケート「授業の進め方等に工夫が見られ、分かりやすく充実した授業である」の項目のプラス評価の割合が80%以上（生徒）
	3年	高校在学時のキャリア教育のまとめとして、また進路決定に向け、ICTを活用した授業研究を実施する。	・「生徒の進路実現への意識が高まる」、 「知識が定着する」等、3年次に効果的なICTの活用のタイミングを学年団全教員で研究する。	・第1学期に1度、ICTを活用した授業を実施し、学年団会議で協議を行う。
	1年	家庭学習時間を確保し、基礎学力の向上を図る。	・家庭学習の時間を毎日2時間以上確保する。授業前準備を万端にして授業に臨む。	・2時間以上家庭学習をする者6割以上。
	普通科	各学年・進路指導課・教務課と連携し、進路実現のために必要な学力の養成と進路意識の高揚に取り組む。	・授業公開やICT機器を活用した授業方法の研究を通して教員の指導力向上に努める。 ・LHRやCCTの活動を通じて、進路に対する生徒の意識を高め、目標達成に向けた学習活動への動機付けを行う。	・各学年、進路指導課、教務課の関連する目標の達成状況に準じて判断する。
	商業科	学力向上を目的とした授業改善（ICTの効果的な活用も含めた）を図りながら、授業内容の課題を文書化し共有する。	・研究授業及び公開授業を通し、授業見学を行い、授業づくりに参画する。 ・学期や定期考査ごとに振り返りながら、課題を明らかにする。	・授業内容の課題を共有できるような各科目指導計画書を、主要科目を中心として作成する。
②	キャリア教育委員会	「キャリア・ノート」を活用し、改善を図る。	・総合的な学習の時間だけでなく、ホームルーム活動の時間や学校行事などでも「キャリア・ノート」を活用する。 ・キャリア教育の年間指導計画を教員間で共有し、事前・事後学習や学校行事同士の関連を理解する。 ・総合的な学習の時間、ホームルーム活動の内容を検討する。	・学校行事や講演会等の事後感想文、社会貢献活動や検定試験の記録などで活用されている。 ・特別活動の全体計画を作成するなどキャリア教育の手引きが改善されている。 ・総合的な学習の時間やホームルーム活動の時間の内容が見直され、指導案が整備されている。
	総務課	「キャリア・ノート」の活用を通して、コミュニケーション能力の育成・伸長を図る。	・7つの力の育成を意識しながら、コミュニケーション能力育成プログラムやCCT等の様々な活動を実践する。	・プログラム実施前後のアンケートで、肯定的評価の割合が増加する。
	進路指導課	「キャリア・ノート」に対応して適切な進路情報を提供し、生徒の進路意識を喚起する。	・『進路便り』等の広報紙や集会、CCTを通して、進路情報の提供を行い、早期からの進路意識の高揚を図る。 ・成績上位者の伸長、成績不振者への指導など、生徒個人に応じたきめ細かい指導を行い、卒業まで諦めずに学習に取り組ませる。	・『進路便り』を各学年、年間12回以上発行する。 ・就職希望者が卒業時に全員内定している。 国公立大進学希望者の合格者数が前年より増加している。浪人や特別な事情がある生徒を除き、卒業時の進路未決定者がゼロである。
	図書課	未貸出者の数を減らすことによって読書に親しむ態度を育て、柔軟性や状況把握力を向上させる。	・読書リレーにクラスで取り組む(協力力) ・ビブリオバトル(新規)で本をなかだちとしたコミュニケーションを体験し、読書に親しむ態度を育てる(発信力) ・読書記録(「キャリア・ノート」)の利用を促す。 ・図書館ディスプレイを利用した生徒有志による本の紹介(実行力・発信力)	・年々未貸出者の数字は増加しており、昨年度は45%に上る(オリエンテーション貸出を除く)。何とか400人未満、できれば350人未満に抑えたい。 ・生徒有志によるオススメ本紹介映像を流す(年間15人程度)。
	3年	コミュニケーション能力育成プログラムが全科展開された最初の学年として、1年次から積み上げた7つの力が反映された「キャリア・ノート」を作り上げ、進路指導を行う。	・学校行事やCCTをはじめとする様々な場面で、生徒が7つの力を主体的に発揮できるようにし、進路実現に向け、身に付けた力を活かすことができるようにする。	・「キャリア・ノート」を完成させる。 ・進路指導アンケートの質問9「進路指導の満足度」で、「満足」「まあ満足」と回答する生徒が前年度(95%)を上回る。

該当する経営目標の番号	課・学科・学年等	具体的目標	具体的計画	達成基準
②	2年	7つの力の育成（特に、発信力、実行力、自己肯定力の3つの力の強化）。	<ul style="list-style-type: none"> ・CCTや修学旅行前後の学習の中で、自分の意見や考えを発信する機会を多く設ける。 ・スケジュール管理を意識させ、今自分に必要な課題を自ら考え解決する力を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度の初めと終わりにアンケートを実施し、自分の力がアップしたと感じる生徒が増える。
	1年	進路意識の高揚を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・「進路の手引き」と「キャリア・ノート」を利用して、進路に関する情報を提供し、理解を深めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3学期にアンケートをとり、進路に関する理解が深まった者が9割以上。
③	生徒課	学校内外での諸活動を通じて、生徒が豊かな人間性や社会人として必要な資質を身につけるための援助を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・TPOに応じた態度の醸成を通じて、社会的自立に必要な状況把握力・傾聴力を向上させる。 ・社会貢献活動を通じて、協力する力・自己肯定力・実行力の向上を図る。 ・生徒会活動などの特別活動や部活動を充実させ、心身の健全な成長を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に挨拶をすることができる。 ・制服の着こなしや言葉遣いなどを状況に応じて正しく選択することができる。 ・特別活動や課外活動に能動的に参加し、自らの内面的成長を促している。
	厚生課	校内の環境美化に力を入れ、教育環境の整美に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレ、教室を重点的に清掃する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレ、教室がきれいになることで教育環境が向上する。
	国際情報科	学習環境、身だしなみを整え、学習に向かう姿勢を身につけさせることで学力向上を図り、生徒一人一人の希望に合った進路を実現させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除、整理整頓を習慣づけ、継続的な身だしなみの指導をする。 ・目標設定、課題等の計画的な取り組みを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームルームが定期的に整理整頓されており、身だしなみやあいさつに注意を払うことができる生徒が増える。 ・落ち着いた学習できる環境が整い進路実現への意識が高まる。
	3年	身だしなみなど西高生にふさわしい態度について理解し、「美しく歩く」ことのできる生徒を育成する。また、TPOをわきまえて行動できる「美しく話す」生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現を念頭に、日常的な生徒・教職員間のコミュニケーションを重視し、問題のある場合に積極的に働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の特別指導を5件以下に留め、学年集会における身だしなみチェック（生活点検）で指導を要する生徒が毎回5名以下である。
	1年	高校生らしい生活習慣、身だしなみ、言葉遣いを身につけさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・TPOに応じた挨拶や行動をとることができるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・TPOに応じた挨拶、行動をとることができる生徒が8割。（職員室に入室してくるときにチェックする。）